

2009 氷河地形

〔I〕 次の文を読んで、(1)～(10)に入れるのに最も適当な語句を下記の語群から選び、その記号をマークしなさい。なお、図c中に例示した3、5、6、8の地形は、それぞれ本文の(3)、(5)、(6)、(8)と対応している。

地球の最近の氷河時代は(1)であり、この氷河時代には幾つかの氷期と間氷期がある。氷期には極域またはそれに近いところでは(2)が発達し、山岳地域では山岳氷河が発達した。ここでは山岳氷河に関連した地形について考える。

山岳氷河の侵食地形のうち、(3)がおそらく最も顕著な侵食地形を呈する。これは、氷河が形成される前の河川の流路(図a)を受け継ぐことが多く(図b)、氷河が融け去った後の谷の断面(図c)を見ると、(4)字型を呈する。氷河の流れが緩やかなほど(3)の横断形は大きくなっており、これは河川の谷の横断形の傾向と類似する。なお、氷河が融け去った後を示した図cをみると、支谷の主谷への合流点に(5)が形成されている。言い換えると、滝が分布する。

氷河の上流部は山頂部に迫っている(図b)。この付近の氷河は特に(6)氷河と呼ばれるが、これが融けて出現した窪地を(6)と呼ぶ。日本もこういった地域に該当し、例えば(7)に見られる。図cでひとときわ聳える峰は周囲を(6)氷河で侵食されて形成されたもので、(8)と称する。

改めて、図aと図cを比較すると、河川と氷河による侵食形態に大きな違いがあることがわかる。図aでは山地斜面はおよそ凸で、図cではおよそ凹になっている。ただ、図bの左下の山地部には氷河が被覆していないので、(9)作用が卓越し比較的凸の斜面が分布している。

ここで示した図の範囲から外れるが、氷河が海域まで続いていた場所では、氷河が融けると、(10)海岸が形成される。

[語群]

- (ア) U (イ) 懸谷 (ウ) 氷食谷 (エ) 氷床 (オ) 周氷河
(カ) V (キ) 更新世 (ク) 完新世 (ケ) 谷氷河 (コ) ホルン
(サ) ケスタ (シ) ドリーネ (ス) カール(圈谷) (セ) フィヨルド
(ソ) リアス式 (タ) 飛驒山脈 (チ) 紀伊山地 (ツ) 九州山地

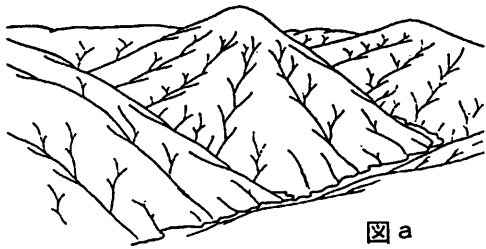


図 a

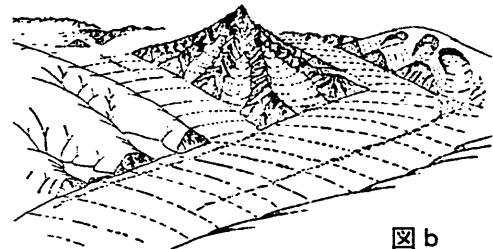


図 b

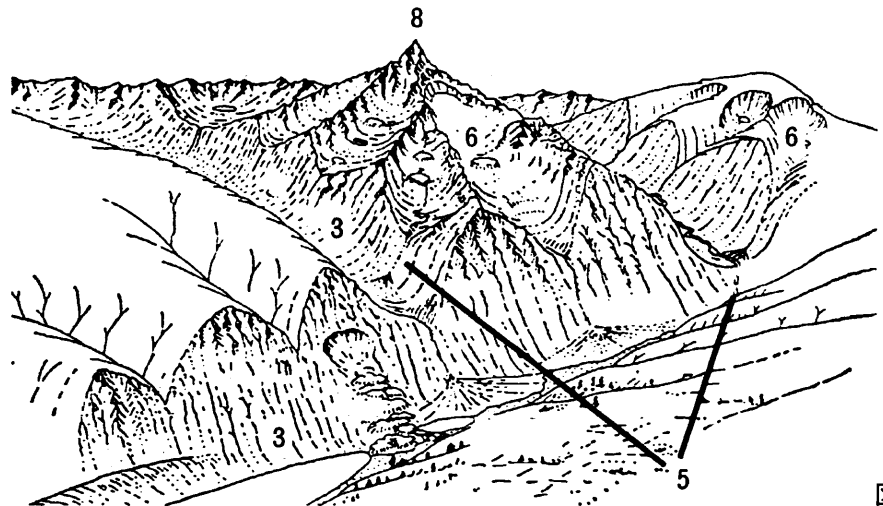


図 c